

きんべいしゃ  
金幣社

# 白山神社由緒

祭神 くくりひめのみこと 菊理媛命 いざなぎのみこと 伊弉諾命 いざなみのみこと 伊弉冉命

大富の地はその昔<sup>たかだてしてん</sup>高田勅使田と言われ、朝廷直轄の地であった。美濃国神名帳によれば、この地の守護神として高田明神が祭られていたとある。

清和源氏の直系である土岐頼貞は地頭守護の任を受け、この神社の近くの大富館に住まいし、この近在を統治したが、一族の氏神として高田明神を厚く信仰した。その後、その子孫も代々手厚く祭祀したが、この長い歴史をもつ由緒ある古社も、戦乱の時代天正2年(1574)に武田勝頼一族により焼失させられた。

現白山神社は、江戸時代、貞享3年(1686)に加賀<sup>かが</sup>白山<sup>がしら</sup>比咩<sup>やまひめ</sup>神社の祭神<sup>かんじょう</sup>を勧請し、現在地に造営された。その後、神仏習合により玉林山竜泉寺が併設され、享保5年(1720)には大鳥居も建設され、諸願成就、縁結びの神として村人の崇敬心が益々高まっていった。

現在の白山神社社殿は、昭和5年に改築されたものであるが、その後、大富区内に奉祭されていた稲葉神社<sup>ひのみこ</sup>、日神子神社なども境内社として合祀され、現在に至っている。又、昭和38年には結婚式場神泉殿が併設され、41年にはその由緒・崇敬により金幣社に昇格し、その偉容を誇っている。